

愛知学院大学歯学部倫理委員会

令和 7 年度第 1 回会議 次第

令和 7 年 5 月 23 日（金）14：00～

I. 報 告 事 項

1. 令和 6 年度第 6 回倫理委員会議事録（案）（令和 7 年 3 月 21 日）
2. 委員長決裁について
(継続審査 2 件：受付No.844、866/ 一括審査 3 件： 受付No.854、882、883
/ 研究等変更審査 11 件：受付No.680、707、873、874、875、876、877、
878、879、880、881 / 研究等終了報告書 8 件：受付No.592、635、656、
657、661、692、733、860)
3. その他

II. 審 議 事 項

1. 新規申請の審査（5 件：受付No.867、868、870、871、872）
2. その他

令和7年度 歯学部倫理委員会 名簿

	氏 名	所 属 等	委員区分(選出母体)	任期
○	鈴 木 崇 弘	生化学講座教授	規程第4条(1)基礎系講座専任教員	2025.4.1～2027.3.31
	永 井 亜希子	解剖学講座准教授	〃	2025.4.1～2027.3.31
◎	長谷川 義 明	微生物学講座教授	〃	2025.4.1～2027.3.31
	林 達秀	歯科理工学講座教授	〃	2025.4.1～2027.3.31
	杉 田 好 彦	口腔病理学・歯科法医学講座准教授	〃	2025.4.1～2027.3.31
	後 藤 満 雄	口腔顎顔面外科学講座教授	規程第4条(2)臨床系講座専任教員	2025.4.1～2027.3.31
	野 本 周 嗣	外科学講座教授	〃	2025.4.1～2027.3.31
	成 瀬 桂 子	内科学講座教授	〃	2025.4.1～2027.3.31
	田 淵 雅 子	歯科矯正学講座准教授	〃	2025.4.1～2027.3.31
	高 木 敬 一	本学法学部客員教授	規程第4条(3)倫理学・法律学の専門家等、人文・社会科学の有識者	2025.4.1～2027.3.31
	黒 神 聰	本学名誉教授(元法学部教授)	〃	2025.4.1～2027.3.31
	伊 藤 友 也	元中部大学職員	規程第4条(4)研究対象の観点を含めて一般の立場から意見を述べることのできる者	2025.4.1～2027.3.31
	佐 藤 英 代	元名古屋女子大学職員	〃	2025.4.1～2027.3.31

◎委員長 ○副委員長

令和7年度 第1回歯学部倫理委員会
インターネット公表一覧

1	実施責任者	北沢 敏美
	研究課題	手指衛生の遵守率向上を目指した取り組み
	概要	公表不可
2	実施責任者	後藤 満雄
	研究課題	自家骨および人工骨を用いた上顎洞挙上術後の造成骨評価
	概要	上顎洞挙上術は上顎臼歯部に骨量が少なく歯科インプラントを埋入出来ない場合に、口内から上顎洞粘膜下に自家骨や人工骨を移植し、歯科インプラント埋入時の適切な骨幅を確保するために行う方法である。移植骨は自家骨や β -TCP製剤、炭酸アパタイト製剤、リン酸オクタカルシウム製剤など、様々である。口腔顎顔面外科学講座は年間15例程度の上顎洞挙上術による骨造成を手掛けており、上顎洞粘膜の挙上並びに骨造成を伴う歯科インプラント埋入手術を行う。この手術は多くの施設で行われているものの、経時的な3次元的移植骨の吸収量に関する報告が少なく、多変量解析による交絡因子に関する検討の報告は数少ない。従来のCT画像(二次元画像)では評価困難な移植骨並びに骨誘導因子による新生骨の経時的变化を三次元CT構築画像(以下:3d-CT)で解析する。術後骨吸収量に留意した術式を得ること、移植骨材料(自家骨・リン酸オクタカルシウム)における骨吸収の評価、および術後に骨吸収に留意する必要がある症例の検出を目的とした本研究の成果により、骨造成術の質的向上が期待される。
3	実施責任者	渡邊 哲
	研究課題	リンシング(ぶくぶくうがい)と摂食嚥下能力に関する検討
	概要	リンシング(ぶくぶくうがい)は、誰もが日常の“歯磨き”で行う何気ない行為の一つであるが、同時に口腔器官を使った高度な協調運動でもある。この口腔器官の協調運動は、摂食嚥下機能にとって重要であるが、摂食嚥下リハビリテーションにおいて、口腔器官の協調運動にはあまり注目されてこなかった。リンシングの可否については、先行研究で口腔機能低下症の検査項目との有意な関連が認められたとの報告があるが、摂食嚥下能力との関連は報告されていない。また、リンシングの持続時間について調査した先行研究は、我々が調査したところ見当たらなかった。リンシング持続時間は、口腔器官の協調運動の耐久性を示す可能性があり、食事を一定量安定して摂食するための摂食嚥下嚥下能力との関連があるのではないかと考えた。そこで、リンシングの持続時間を測定し、リンシングの持続時間と経口摂取のレベルに関連があるかを調査し、リンシングという口腔協調運動を、摂食嚥下評価やリハビリテーションに活用することを目的に本研究を立案した。
4	実施責任者	渡邊 哲
	研究課題	愛知学院大学歯学部附属病院歯科衛生部員の摂食嚥下リハビリテーションに関する意識調査
	概要	近年、日本は超高齢社会に突入し、摂食嚥下リハビリテーションの需要が急速に高まっている。しかし、摂食嚥下リハビリテーションの重要性が増す一方で、歯科医療従事者の関与や体制整備が不十分であることが報告されている。このような状況の中で、歯科衛生士が果たす役割は今後さらに重要となり、適切な知識と実践力の習得が不可欠である。これまで、摂食嚥下リハビリテーションにおける看護師や研修歯科医を対象とした意識調査は行われてきたが、歯科衛生士に関する同様の調査は行われていない。そこで、本研究では、愛知学院大学歯学部附属病院の歯科衛生部員を対象に意識調査を実施し、歯科衛生士の役割に関する理解を深めるとともに、今後の業務への応用を検討するための基礎資料とする。
5	実施責任者	宮澤 健
	研究課題	セミオーダーな矯正装置の効果・有用性の検討
	概要	公表不可

令和7年度第1回歯学部倫理委員会議事録

日 時：令和7年5月23日（金） 14時00分

場 所：歯学部基礎教育研究棟 第1会議室

出席者：鈴木、永井、杉田、成瀬、田淵、高木、黒神、伊藤、佐藤

（事務）加藤、磯部

欠席者：長谷川、林、後藤、野本

開 会：14時00分

会議開始に先立ち、鈴木副委員長より新委員（佐藤英代）の紹介があった。

I. 報告事項

1. 令和6年度第6回倫理委員会議事録（案）について

副委員より、資料に基づき報告があり、原案どおりこれを了承した。

2. 委員長決裁案件について

副委員長より、継続審査となっていた2件（受付No.844、866）、一括審査3件（受付No.854、882、883）、研究等変更審査11件（受付No.680、707、873、874、875、876、877、878、879、880、881）及び研究等終了報告書8件（受付No.592、635、656、657、661、692、733、860）について、申請書類等の審査を行い、委員長決裁による承認とした旨、報告があった。

3. その他

なし

II. 審議事項

1. 新規申請の審査5件について

副委員長より新規5件（受付No.867、868、870、871、872）の申請があり、申請者から研究の概要及び実施計画等の説明を受け判定したい旨の提議があり、これを了承した。

次いで、各申請者から資料に基づき説明があり、研究実施計画の内容等について質疑応答があり、申請者退席後、申請課題について審議した結果、全会一致をもって継続審査とした。

なお、附属病院看護部から申請された1件（受付No.867）について、歯学部附属病院に勤務する者からの申請として審議を行い、以下の2点を必須条件とした。

- ・様式1「申請者の所属する長の氏名」に病院長名を記載し、押印を得る
- ・共同研究者に歯学部教員を入れる。

また、今後同様の申請があった場合についても、これらの条件を歯学部倫理委員会の申し合わせ事項として適用することを承認した。

2. その他

副委員長より、研究実施計画書に研究データ等の保管期間を記載する旨の提案があり、これを了承した。なお、手引きへの追記内容については、次回の倫理委員会にて審議することを了承した。

次回委員会について

日時：令和7年7月11日（金）14時

場所：楠元キャンパス 基礎教育研究棟1階 第1会議室

閉 会：18時15分